

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26 年 4月 2日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200684		
法人名	株式会社エポカケアサービス		
事業所名	グループホーム千田・みどりの家		
所在地	広島市中区南千田東町4番32号 (電話) 082-236-7270		
自己評価作成日	平成26年2月10日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	なし
-------------	----

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成26年3月24日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

基本理念の「ゆっくり いっしょに たのしく」をモットーに、入居者様・家族様・職員のあたたかな笑顔があふれるホームを目指しております。  
せかされることなくご本人様のペースでその方らしく、ゆっくりと心地の良い時間を過ごして頂けるように、そっと寄り添うケアを心掛けております。  
医療とも連携を図れており、提携医や提携薬局はどんな小さな心配事にも親身になって相談にのって下さり、緊急時にはすぐに駆けつけて下さいます。それは入居者様・家族様の大きな安心につながっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

当事業所は、広島市内の千田公園傍にある。法人理念「ゆっくり、いっしょに、たのしく」を基に、「今までの習慣や顔なじみに囲まれた生活が出来る」支援を実現するため、毎朝の散歩や積極的な地域貢献を行うことで地域との繋がりを深めている。又、施設が市中にあるという利便性の良さで友人やお勤め帰りの家族の面会も多い。医療面では、提携医の往診が毎週定期的であり、法人本部の看護師による24時間対応システムは利用者・家族に安心を与えている。屋上には、利用者と共に作られた菜園があり、日々の食事に使われる野菜等を一緒に収穫している。平成24年10月に開設した新しい施設であるが、利用者・職員が和やかな落ち着いた雰囲気での生活を送っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員は皆、みどりの家の基本理念「ゆっくり いっしょに たのしく」を意識しながら、家庭的で心地の良い環境で入居者様に生活して頂けるように支援している。ホームでも基本理念に沿った目標を設定し、面談や会議などで意識の統一を図っている。基本理念はいつでも目にできるフロアーに掲げ、常に意識できるような環境を作っている。	法人基本理念「ゆっくり、いっしょに、たのしく」を基に、全職員で年間目標（入居者が、共にゆっくり楽しく笑顔溢れる生活が出来るホーム）を設定し、全職員が目標を実現するため、個別面談、会議等で話し合いの機会を持ち基本理念・年間目標を共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	入居者と共に地域の行事へ参加したり、地域の清掃活動に加わっている。	毎月第2土曜日に町内清掃があり、近くの公園で、清掃活動に利用者・職員で参加している。地域の中で地域住民としての役割を頂きたいと運営推進会議・町内行事等でお願いしてきたことで清掃活動等での力仕事、色々な行事の協力要請などが、徐々に増えてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	毎日の散歩や外気浴等で地域の方々に挨拶や言葉を交わし、認知症高齢者への認識や理解を深めて頂くようにしている。また1Fの多目的ホールは必要時に地域の皆さんへ解放し、地元住民の方々の活動に協力する旨をお伝えしてきた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回、開催している。会議ではホームから活動や現状の報告を行い、参加者の皆様から助言や意見を頂き運営にいかしている。地域の問題や情報も収集し解決できるように協力している。また救急救命等の勉強会も行い、緊急時や災害時に協力を仰げるようにしている。地域の方達にとって有用な情報や知識が提供できる有識者を招き講習も開催している。	運営推進会議には、民生委員・地域包括支援センター職員・町内会代表・利用者が参加し、施設状況・行事・事故などの詳細な事柄について報告が行われ、参加者からの多様な意見がサービス運営に活かされている。	運営推進会議の家族参加については、広報誌・面会時に呼びかけているが参加をして頂けない。日時の調整、会議の雰囲気づくりの検討がなされ、多くの家族が参加出来る会議となるよう期待したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	各担当課に最新の情報や法令上の指導を仰いだり、公費負担や困難事例について相談している。	運営推進会議議事録を、市に定期的に持参し当事業所の状況等を報告し、自立支援や原爆関連の申請、手続きなど各種の指導を仰いでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束についての勉強会は定期的に行っている。開設以来今まで、身体拘束は行っていない。交通量の多い十字路に面しているため、玄関は全開放ではないがフローアの扉やエレベーターには施錠なく、入居者の外出願望には必ず付き添い、外出支援できている。</p>	<p>交通量の多い十字路に面した玄関扉以外、エレベーター・ユニット扉・窓・非常口扉・屋上扉は無施錠である。玄関扉も緊急通報時には、自動に開錠されるシステムになっている。身体拘束の研修会に定期的に全職員が参加し、施錠することの弊害を良く理解して、身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待防止法について学ぶ機会をもち、虐待の定義から介護職員の責務について勉強している。ケア向上委員会を発足させ、未然に不適切なケアが防止できるように検討できる場を設けている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>現在、該当される入居者はいないが入居相談時等では関係機関等への連絡調整を図ってきた。ホームにおいても少しずつではあるが勉強会等で理解を深めるようにしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時も解約時も2名の職員が立ち合っている。契約書や重要事項説明書も十分な時間をかけて、全てを契約者と読み合わせし、不安の解消に努め質疑に答えている。契約・解約時以降にも不明な点があればその都度、納得されるように説明している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>定期的に家族会や行事会を開催し、色々な意見や要望を受け付ける場を設けている。また面会時以外にも家族へ入居者の様子などを電話等で連絡し、意見を伝えやすいように配慮している。その情報をミーティングで伝え支援に繋げている。</p>	<p>毎月1回のペースで個々の家族・利用者と話し合える場を設定している。又、家族会・施設行事開催時にモニタリングを行い、利用者・家族の思いを出来るだけ汲み取るようにしている。意見については会議を行い施設運営に反映している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員は全体ミーティング・フロアミーティング・リーダーミーティングへ出席し、管理者はその他にも本社会議に出席して報告や意見交換を行っている。また年2回の個別面談を行い、個々の職員の意見を聞く機会を設けている。出た意見は支援や業務の改善に繋げている。	毎月1回、全体会議とユニット会議を行い、業務の流れ、役割、ルールを見直し職員の意見を取り入れて、マニュアルの変更を行っている。又、全職員が役割委員（ケア向上・行事・防災等）を担当して利用者により良いサービスが提供できるように業務改善に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回の考課面接を行っている。雇用条件等の要望はその都度、本社に改善してもらえるように伝えている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月ホームで行うミニケアや法人が行う基礎教育研修は全職員が参加しており、働きながら学べる機会を提供している。内外の研修は掲示、報告し自主参加できるように配慮している。外部で受けた研修はミーティング時に全職員に伝える時間を設けている。介護福祉士等の資格取得への勉強会も開催されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内のグループホームでは毎月交流会を行っている。相談員・ケアマネは各人のネットワークで情報交換を行っている。また開設2年目である為、同業者の見学も多いので見学後も連絡をとり、ネットワーク作りをしている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に必要な情報収集を家族・担当ケアマネや相談員・医師・支援事業所等から行い、自宅や入居施設において個人面談を必ず行って不安の解消に努めている。また情報は職員に周知し、安心して生活できるように環境の整備を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前にしっかり話し合いをして不安の解消に努めている。収集した情報に基づきケアプランを作成し同意頂いている。入居間もない時期には、面会時以外にも頻繁に入居者の様子を伝え、その都度、要望等を聞き信頼関係を構築するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族からしっかり主訴の聞き取りを行い、その時望まれているサービスが介護保険、医療保険、社会福祉資源その他色々なものから選択できるように提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来ることは共にして頂きながら、おひとり一人のパーソナリティを尊重し有用感をもって行える役割分担をしている。買物・洗濯・掃除・調理等それぞれの得意とされる役割りがあることで共同生活者としての関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	定期的に近況を報告し、家族の気持ちを傾聴している。毎月、通信を送付し日々の様子を理解して頂いている。家族が面会に来やすい環境を作り、出来るだけ面会に来て頂けるように配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族、知人、友人等にいつでも訪ねて頂けるような環境作りをしている。面会時には談話しやすいように席を用意したり、お茶等でもてなしている。外泊や法要等への出席をされている入居者も多い。	この施設の家族は、施設近隣での勤め先の方が多く、ほぼ毎日殆どの利用者に面会がある。又、友人知人の面会者も多く、その友人・知人の連絡先情報も入居時に情報収集されており、絶えず関係の維持が出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の人間関係を把握し、心地よい時間が過ごせるように職員が取り持っている。午前、午後に行えるレクリエーションや創作活動等を提供し、なじみの関係が構築できるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	転居や入院時には可能な限りの情報提供を行っている。退去されてからも家族より連絡があり必要に応じて相談にのっている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員が毎日の温かい声掛けや関わりの中でおひとり一人の意向や思いを把握するように努め、気づきシートを活用しケアプランに繋げている。家族ともお話出来る機会をつくり意向の確認を行っている。	日々の生活における声掛けや関わりの中で、職員は気づきシートを作成し、3ヶ月ごとに全職員がそれをもとに利用者・家族の意向を傾聴し、アセスメントに繋げ、対応を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前は本人や家族の面談や利用していた事業所や医療機関からの情報収集により、生活歴や暮らし方等を把握するように努めている。入居後も新しく収集した情報は職員間で共有し支援に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個別記録や申し送り日誌にて日々の心身の状態等の把握ができるようにしている。変化が生じた時は、職員が状態の正確な把握ができるようカンファレンスを開催し、状態に合わせた支援の統一を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>全職員は気づきシートを活用して入居者の現状の把握し、本人の思いや意向、家族やかかりつけ医の意見を参考にしながら、関係者と話し合いをもって介護計画を作成している。課題を分析できるように毎月モニタリングを行い記録を残し、現状に即した介護計画が作成できるようにしている。</p>	<p>職員の気づきシートを基に、利用者の日常の変化を把握し、毎月利用者・家族へのモニタリングを実施し、結果の課題分析を行った後関係者との話し合いで現状に即した介護計画を立案している。また、職員間では申し送り時に周知を図っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>毎日、個別記録にケアプランに沿った実践内容や結果を記載し、それを基に必要なことは申し送り日誌に記載して職員間で情報共有できるようにしている。また毎日の申し送り時に情報を周知している。その中で状態の変化がある時は関係者に伝え、計画の変更を行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>常に本人、家族の状況が把握できるように配慮し、他ユニットや本社・法人内のグループホームや他施設の協力を仰ぎ、新しいニーズに対して柔軟に対応できるようにしている。公の機関においても協力を仰げるように連絡や相談をしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域のボランティアさんに、楽しい手作業や数々の芸事の披露をして頂き、入居者の楽しみや豊かな暮らしに繋げている。また地域の行事への参加や地域の商店を利用することによって交流が図れるように配慮している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居前に本人や家族にかかりつけ医の選択をして頂き、入居後も必要に応じて提携医と連携しながら適切な専門医の紹介を行っている。毎週火曜日の午後に提携医の往診があり、体調不良時等には適宜提携医の往診がなされている。</p>	<p>利用者・家族の意向で馴染みのかかりつけ医を利用することが出来る。施設には毎週火曜日に提携医の往診があり、近隣の本部看護師による24時間対応システムがあり、利用者・家族の安心を得ている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	体調不良等の特変があれば看護師に報告をし、提携医との連携を図り健康管理をしている。また定期往診時の対応は看護師と共に行っている。医療ファイルや往診記録を作成し職員が情報共有できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には早急に提携医からとホームからの情報提供書を作成し入院先に届けている。入院中は状態の把握ができるように面会を行い病状や回復状態の確認を行っている。退院後は病院より情報提供書やサマリーを受け取り提携医にも情報提供し、入院後の生活が安心しておくれるように支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時において看取り指針を文書にて説明し、理解頂くようにしている。まだ開設まもない為、重度化された方はいないが医療に関する事前確認事項等に回答頂き、本人や家族の意向を把握するように努めている。	入居時に利用者・家族に事前に看取り指針の説明を行うと共に医療アンケート・看取りアンケートを実施して現時点での意向を確認している。施設ホーム長・一部職員の他施設での看取り経験を活かし、関係者等によるチーム支援体制で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の連絡経路や連絡網作成している。定期的に救急救命の研修を行っている。ヒアリハットや事故報告書を職員間で回覧し、事故の再発防止やリスクマネージメントが行えるようにしている。事故発生時に適切な対応ができるように、ミーティング時にアクシデントやインシデントの検証を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、消防署の協力を仰ぎ、昼夜間想定を含めた避難訓練・消火訓練を行っている。防火管理者・防災委員を選出し定期的に防災点検を行っている。非常用の食材や水、簡易な調理具も用意している。	火災訓練は、年2回消防署の指導で実施している。地域との連携を図るため、運営推進会議・町内行事等で、地域の方へ消火訓練・避難訓練の参加を促し徐々に地域を巻き込んだ訓練になってきている。職員の中より、防災管理者・防災委員を選出し定期的な点検を行っている。又、災害時に備えて水・非常食・簡易コンロなどが施設上層階に備蓄されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	法人で行われる個人情報についての研修に職員全員参加してる。個別情報については鍵付きの書棚に保管している。情報破棄にはシュレッターを使用している。職員は尊厳や羞恥に配慮した声掛けが出来るように意識して支援を行っている。	法人が開催する定期的研修に全職員が参加し、利用者の尊厳を損なわない対応をしている。もし、家族が傍にいても出来る声掛けや、廻りの利用者への気配りに配慮した対応を職員が意識した支援が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	事前に家族から本人の性格や習慣や人生歴を聞き取り、自己表現しやすい環境作りをしている。言葉だけでなく表情や行動などからも思いや希望がくみ取れるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人のペースで食事・入浴・休息・起床・就寝等が出来るように集団的な支援の統一は行わないようにしている。お一人ひとりにその日に行いたい事を確認しながら充実した余暇時間を楽しんで頂けるようにレクリエーション等も工夫して提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎月、訪問理容に来てもらい希望の髪型が楽しめるようにしている。季節に応じた衣服が自己選択できるように支援している。下着や衣類は清潔が保てるように洗濯をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居前に嗜好について聞き取りを行い、好き嫌い等の把握をしている。下拵え、味付け、盛り付け、台拭き、配膳、片付け等、その方の能力に応じた役割りで無理なく家事が楽しめるようにしている。回転すし等の外食や節会の食事、お誕生日には手作りのケーキ等を提供し食事に楽しみが増えるようにしている。	入居時のアセスメントで嗜好についての詳細な情報が収集されている。同じ提供メニューでも個々の利用者に合わせて調理方法、盛り付け方を工夫し提供している。月2回のペースで利用者の意向を伺い、グループで外食を楽しんで頂けるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	摂食量、水分量とも毎日記録し、必要量の摂取が出来るようにサポートしている。水分摂取が困難な方には水分の多い食品やお茶ゼリー等を提供して必要量の摂取が出来るように努めている。食事量の少ない方はご家族様、提携医と相談し栄養食の提供も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、職員の声掛けで皆様、気持ち良く口腔ケアが出来ている。磨き残しがないように援助している。定期的に義歯洗浄剤で入歯の保清も出来ている。歯科の提携医がおり定期的な往診で口腔内の健康維持ができています。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄時間を記録し、お一人ひとりの排泄間隔の把握を行っている。それによって適時のトイレ誘導や声掛けが行えており失禁も少ない。	利用者の排泄パターンにより、声掛けして誘導を行っている。職員は、個々の利用者に対応した声掛けの方法を共有して、ストレスが緩和できるようスムーズな支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	規則正しい排便に繋がるように、毎日、散歩や体操などで適度な運動が出来るように支援している。気持ちの良い排便が出来るように食事や水分補給にも配慮している。それでも排泄困難な方には提携医より適切な薬の処方もしてもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	毎日、入浴可能で無理強いすることなく、入居者のご希望にそって時間を気にせず、お一人ひとりのペースで入浴を楽しんで頂いている。入浴が困難な体調の時等は手浴・足浴・清拭を支援して気持ちの良い生活をサポートしている。	入浴時間は13：30～16：30の間で、業務都合での入浴ではなく利用者の希望に沿って入浴して頂いてる。入浴回数が少ない方、入浴が困難な方の場合には清拭などで対応支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中は活動的に過ごせるように支援し、夜間は熟睡して頂けるように支援している。日中でも状況により自室でゆっくり休んで頂けるように援助している。就寝時間もおひとり一人のペースで空調管理にも配慮して快適に休んでいただけるように支援している。夜間眠れない方には入眠に繋がる飲料を提供しお話の傾聴なども行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局による居宅療養管理指導を受けており、定期的に薬剤師による薬についての勉強会も開催している。個々の薬の情報書をファイルし服薬状況や効用・副作用を把握するようにしている。処方薬に変更があった場合は医療連絡ノートや申し送りで周知するようにしている。病状に変化がみられたときは随時、提携医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活歴や趣味・嗜好を把握し、出来ることを有用感をもって行えるように支援している。その日の体調やお気持ちにそって楽しみ事が提供できるようにサポートしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	殆どの方が散歩を希望されているので、毎日外気浴が出来るようにサポートしている。行きたい場所の希望を聞き取り遠い場合は行事計画をたて外出できるように援助している。	日課として、午前10時頃より、グループで近くの公園まで散歩を行っている。又、月に1~2回、1階の多目的ホールで2階3階のユニットによる合同交流会を行い、親睦を深めている。遠い場所への外出希望があれば施設で事前に計画を立てて外出できるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	所持金のホーム管理はしていないが、希望の物を希望時に購入できるように立て替え払いを行っている。所持することにより安心感がある方については、家族と相談し自己管理してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	各フロアーに固定電話、携帯電話があり自由に使用頂いている。使用時にはプライバシーの配慮をしている。年賀状などの通信も希望に応じて随時支援している。		
52	19	○居心地の良い共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	常に清潔を保てるように清掃している。季節感を感じられる壁画を入居者と共に作成したり、日々の笑顔を写真にとり掲示したりしている。屋上は緑化してありガーデニングや外気浴を楽しめるようになっている。	玄関・居間に利用者全員で作られた壁画（ちぎり絵・はり絵）などの大作が展示されている。毎月1点のペースで作成された作品を季節に応じて展示している。又、施設内行事、外出の際の写真展示もあり、利用者が寛げる空間づくりがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	席次は大体は決まっているが、レクリエーション時や余暇時には気の合う方達が自由に配席して、なじみの時間を過ごされている。ソファも設置しており自由に気分の向くまま使用されている。スタッフコーナーの奥の窓辺で外の景色を楽しまれる方もおられる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	どの部屋にも大きな窓があり明るい。毎日の日課の中で職員と共に清掃することによって清潔が保たれている。使い慣れた家具や寝具を持ち込まれたり、家族の写真を飾られたりして居心地の良い環境作りをしている。家具の配置等は安全に配慮し、安心して過ごしていただけるように支援している。	入居前の事前調査で利用者宅を訪問し住いのタンス・備品の配列を調査し入居時に出来る限り自宅お部屋のレイアウトに沿うようにしている。又、配置等の安全にも配慮して落ち着いて生活して頂けるように支援している。	
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	館内全てバリアフリー仕様であり安全に配慮している。シルバーカーや杖歩行の方も安心して行動できるように家具やテーブル・椅子の配置をしている。常に職員が安全を見守れるようにチームケアしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム千田・みどりの家

作成日 平成26年4月28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議の家族参加については広報誌、面会時に呼びかけているが参加をしていただけていない。	家族の参加が出来て意見交換が出来る様になりたい。	家族が参加しやすい日時の調整や会議に参加しやすい雰囲気づくりをする。	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。